



港 防災だより

No.11

2013年（平成25年）3月1日

発行人／四日市市港地区自主防災組織連絡協議会 会長 奥村吉孝

「港 防災だより」について

港地区には、防災を考えるうえで多種多様の問題が存在しております。これらの問題に対処して行く為に重要なことは、住民／企業／行政の相互理解とそれに基づく活動であります。そのためには、日頃、この三者が防災に対する情報を共有し、活動することが重要であり、その一助としてこの防災だよりを発行しております。

港地区総合防災訓練報告

今回の訓練は、台風17号の影響により9月30日（日）から11月4日（日）に延期し実施されました。この訓練への住民の参加者は、第一次避難所で347世帯、518名、主会場で307世帯、402名でした。この他、防災連携企業・パイプライン関係企業、三重大学、行政関係者等54名の参加がありました。

* 昨年に比べ、1次避難所への参加者数は減少、主会場への参加者数は略同等

主会場であるなやプラザの体育館内では、本市危機管理室による東日本大震災の映像上映とその説明、並びに桑内防災リーダーによる防災講演が、一方、体育館外では4年目《4回目》となる避難所運営訓練が実施されました。訓練後のアンケートに対し参加者からは多くの回答が寄せられましたが、訓練についてはいずれも好評である一方、昨年7月に、南海トラフ巨大地震の発表（マグニチュード9.1、四日市市：震度6強、津波5M）があったこともあり、津波避難訓練に対する関心が急速に広がっていることを感じさせるものでした。



南海トラフ巨大地震想定規模 四日市市：震度6強 津波5M

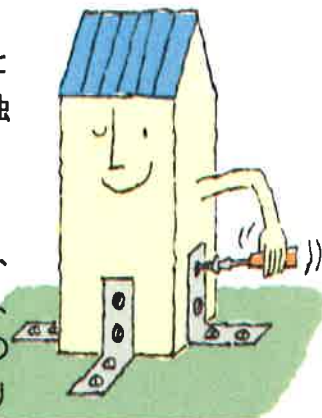
11月26日（月）には訓練関係者による反省会が防災連携企業（グループ長企業）を交え開催されましたが、ここでも自助（家屋の耐震化、家具の転倒防止等）、共助（津波避難訓練）への一層の取り組みについて改めて話し合われました。

平成25年度の港地区防災訓練は、港地区を挙げての津波避難訓練と避難所運営訓練についてはスキルアップ（練度向上）を狙った港地区独自方式の図上訓練を中心に実施していきたいと考えております。

訓練には、各家庭で取り組むべきもの（家族の安否確認、初期消火、避難等）、各町各町で取り組むべきもの（町内の安否確認、町内初期消火、要援護者に対する支援、避難等）港地区で取り組むべきもの（避難訓練、避難所運営訓練等）にその内容が大別されますが、南海トラフ地震への対応として、生きる、生き抜くうえで、その実行がますます重要となりましたので、皆様の一層のご尽力・ご努力をお願いします。

災害発生時において、要援護者のお一人おひとりに確実に支援の手が届くかたちを各ご家庭の、各町の、港地区全体の訓練の中で着実に築いていくことを願っております。

なお、今回の訓練は、数次にわたる事前会議、事前調整等を重ね実現できたものでありますが、この間の関係者・参加者の皆様のご尽力、ご努力に対し厚くお礼申し上げます。



■四日市市地区防災組織連絡協議会



平成23年11月25日、四日市市内各地区の防災組織が相互に連絡協調を図り、広く防災思想の普及高揚に努めるとともに防災隊の健全な発展を目指す、として「四日市市地区防災組織連絡協議会」が発足しました。その後、総会（5月）、発足記念式典（7月）、事例発表会（11月、平成23年度みえの防災大賞等受賞地区による発表）が実施されました。また、この機会を活用して、危機管理室との交流（防災情報の交換・共有）も進められました。



■H24年度グループ別防災訓練

今年度グループ別訓練は以下の予定です。

- 稲場町・北納屋・浜町1～3区グループ・・・津波避難訓練（2/24 実施済）
- 高砂町グループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・高所への避難訓練（予定 3/15）
- 千歳町グループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・津波避難訓練（予定 3/5）
- 尾上町グループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・津波避難訓練（2/7 実施済）
- 南納屋町・西末広町グループ・・・・・・・・・・津波避難訓練（4月）
- 中納屋町・蔵町・相生町・・・・・・・・・・津波避難訓練（予定 3/29）

■地域社会づくり推進会議バス旅行（中部電力浜岡原子力発電所へ）

中部電力(株) 浜岡原子力発電所見学記

堤 義隆

平成24年11月5日、中部地区地域社会づくり推進会議主催の中部電力（株）浜岡原子力発電所見学会に参加しました。バスの中では、『今日は真剣に見学する』気持ちで一杯でしたが、会話も弾み、食事も進み楽しい旅行となりました。

浜岡原子力発電所に着いて入門する時のチェックは、一般の工場と違って飛行場の搭乗ゲートと同じ金属探知機を設置したゲートを通る検査体制になっており、テロ防止対策が徹底していました。さて、無事入門が出来た後、構内専用バスに乗り各場所へ移動しました。初めに原子力発電所の概要説明を受け、次に原子力会館の展望台から浜岡原子力発電所の全景を見ながら、津波対策工事の概要と館内に設置されている実物大模型を前にそれぞれの説明を受けました。



この日も、東日本大震災による福島第一原子力発電所や中央防災会議での検討による津波対策

工事が進められていました。移動して防波壁工事現場を見た時はあまりの巨大さに圧倒されましたが、津波による発電所敷地内への浸水防止の役割を確認し、また津波が防波壁を越えたとしても建物内への浸水を防止する対策や、緊急時対策の強化として原子炉を安定した冷温停止状態に導く仕組みの説明を受けました。

再度移動し、5号機原子炉建屋の見学では、中央制御室の計器の表示は、正常時「緑色」・異常時「赤色」が点灯することで、一目で状況が判る管理方法になっていることが分かりました。展示してあるウラン棒の模型1個の大きさは、想像より小さく手の平に軽く載る物でした。最後の見学先である原子炉が設置してある室に入る時、入口の部屋と原子炉室の気圧が同じになる様に調整後炉室に入る構造は潜水艦と同じであるとの話がありました。現在停止中の電子炉は見学者用窓口から説明を受けることを確認し見学を終了しました。原子力発電所の案内の方が熱心に説明・現地巡回をしていただき、予定より40分程延長になりました。

私は久しぶりに頭をフル回転させて説明内容の理解に努め、十分に見学できた気持ちで帰路につきました。



■「防災フォーラム」に参加して 白峰圭子

昨年12月9日（日）川越町あいあいホールにて、三重県、NHK、中日新聞の主催で行われました。2部のパネルディスカッションで、コーディネーターにNHK解説委員山崎氏・パネリストに鈴木三重県知事・関西大学河田教授・三重大学川口准教授・災



害ボランティアネットワーク鈴鹿 南部理事長に対して、港地区から自主防災組織連絡協議会会長奥村吉孝・防災リーダー桑内利雄・高齢者側から白峰圭子・児童の親側から三浦恭久の4名がディスカッションに加わりました。時間の都合上、地区が取り組む姿をすべて発表出来た訳ではありませんが地

道な日頃の防災活動は分かってもらえたのではないかと思います。とは言え、津波対策となると地域の状況は、人口に占める大多数の高齢者、海岸線の近接、高台が皆無、地下のパイプライン、石油タンク類、名四国道、JR踏切とガソリン貨車等々山積する難条件があり、この課題に向き合うことは非常に難しく、始めの一步から考えると足元の対策、地域住民への積極的な働きかけも忘れてはならないと考えを新たにしました。



■電柱への海拔表示の設置について

港地区内の約60本の電柱に海拔表示シールが取り付けられます。電柱1本の左・右どちらか一面に、大きさはB4サイズで国土交通省・国土地理院の航空機レーザーによる「高精度標高データ」をもとに地盤面高さが海拔（メートル）で表示されます。日常、地盤面高さに留意して災害に備えて下さい。

平成25年3月～4月に実施される予定です。

■企業との災害時における協力に関する協定

以前より進めております、「地震・津波・風水害等の災害時における協力に関する基本協定」について新たに1社と打ち合わせを進めております。

協定が締結されましたら紙面にてご報告します。

自主防災関係 総会予定

5月10日（金）自治会・企業代表者会議総会

6月2日（日）港地区自主防災組織連絡協議会総会



トピックス

JSR 社-コスモ石油社間埋設導管 廃止化工事完了

昭和40年代に敷設、使用されてきたJSR社-コスモ石油社間埋設導管は、近年その使用を休止しておりましたが、平成23年度において廃止化が決定、昨年秋廃止化工事が終了しました。これに伴い、地上部分である昌栄橋（西側）共架部分についても撤去が完了しました。

なお、昌栄橋（西側）共架部分については、東邦ガス社中圧ガスB供給配管が敷設されておりましたが、この配管も供給ルートを新たに設けることにより撤去され、これにより、昌栄橋（西側）共架部分の配管は全て撤去されました。

3月導管管理状況報告会議（予定）

地区内に導管を敷設している企業4社（コスモ石油社、中部電力社、東ソー社、東邦ガス社）から、この一年間の導管の点検結果等につき定期報告を受けます。この報告会は毎年開催されております



災害時炊き出し用備品購入の報告（婦人会）

四日市市防災補助金より

- ・H23年度 大口ガスコンロ5個・大鍋3個購入
- ・H24年度 大鍋2個購入

H23・24年度ともに、防災訓練において炊き出しを役員にて行いました。

（味噌汁・カンパン・クラッカー配布）



港第一市民防災隊の活動状況

隊長 中島守夫

平成 24 年度訓練では、班長・副班長会議を開催し、防災隊構成四町の合同訓練日を決定しました。危機管理室に連絡後、中消防署と日程調整させてもらい消火訓練日を 6 月 17 日（日）と決めていただきました。その後、コスモ石油(株)四日市製油所に連絡し、貯水槽への用水補充の協力を得ました。

当日は、30 名全員の参加には至らなかったものの、多くの隊員が参加し、意識の高さが伺えました。訓練では中消防署員の熱心なご指導のもと、整列・ホース接続・ポンプ運転、そして放水訓練を行いました。

当日は、初参加の隊員もいて、キビキビとした動きに戸惑いを隠せない場面もあり、有意義な訓練だったと自負しています。特に勇壮だったのが放水の場面でした。「俺も筒先をやりたい！」の声が多く、貯水槽の水が不足しかけました。

今後も地域を守るため、放水訓練は続けていきます。

また、恒例の火の用心も実施していきます。

今年度は新たな試みとして、中消防署が配布している「火事をおこさないために」と「わが家の防火」のチラシを 12 月と H25 年 2 月に四町全戸に第一市民防災隊の隊員が配布いたしました。

今後も港第一・第二市民防災隊の活動にご理解・ご指導の程宜しくお願いします。

海上分団 小崎分団長 表彰受賞

1 月 13 日（日）、四日市消防本部の出初式が消防関係者千人と市民 2 千人が参加し開催されました。

このなかで、消防団員らの長年の貢献に対して表象が行われましたが、小崎分団長に三重県消防協会長表彰 功績章 が授与されました。

港地区の消防防災への長年の貢献に対する心からの感謝とお祝いを申し上げます。

出初式 海上分団



5月 コスモ石油（株）定期整備説明会開催（予定）

平成 25 年度に実施される全てのプラント定期整備計画につき説明を受けます。
この説明会は毎年開催されております。



《H25年度で取り組み予定》

避難所で役立つ防災頭巾をみんなで作っていきましょう！！



《防災委員》

荒川 博	家城宏光	池田輝雄	奥村吉孝	加藤 亘
川崎光俊	桑内利雄	小崎重夫	鈴木完一	瀬川 宏
辻本晃成	堤 明	堤 利臣	堤 義隆	寺井 勝
中島守夫	長谷川 雄俊	波多野 通	樋口俊夫	藤村昇平
水谷敏郎	宮崎裕之	山内達生	山口 輝	山田鑛明
山田正幸				(敬称略・五十音順)

《協力企業》

石井燃商(株)	伊勢湾倉庫(株)	(株)エネックス	おのえ作業所
風薫会	協同海運(株)	九鬼産業(株)	九鬼肥料工業(株)
コスモ石油(株)	佐藤クリニック	三エスゴム(株)	JSR(株)
昭和電工ガスプロダクツ(株)		住友電装(株)	第一工業製薬(株)
大成建設(株)	大宗建設(株)	太平洋セメント(株)	高砂建設(株)
中部海運(株)	中部電力(株)四日市火力発電所		中日本建設(株)
東ソー(株)	東邦ガス(株)	東陽興業(株)	日本板硝子(株)
日本海事検定協会		日本カニゼン(株)	日本貨物鉄道(株)
日本通運(株)	日本トランスシティ(株)	(株)ニヤクコーポレーション	
林興業(株)	三菱化学(株)	四日市海運(株)	四日市電機(株)
四日市港郵便局			(五十音順)

編集後記

ある日のなやプラザにて・・・

「此処はごみ一つないきれいな場所だね!」という言葉聞き、何気なく通っている場所を改めてよく見渡す。なやプラザはもちろん町もきれい。道路は狭いけれどゴミはもちろん通行にジャマになるものが無く気持ちよい。

住んでいる人々の心根・・・か。

うっ、我が家はどうかしらん???

